第３次阿波市総合戦略　取組状況

令和８年８月

阿波市

第３次総合戦略ＫＰＩ達成状況（令和７年度）

ＫＰＩ達成状況	全体	【基本目標１】 新しい人の 流れづくり	【基本目標２】 地域における 仕事づくり	【基本目標３】 結婚・出産・ 子育ての 希望づくり	【基本目標４】 活力ある 暮らしやすい 地域づくり
ＫＰＩの75%以上	**170件** **(75.6%)**	48件 **(77.4%)**	27件 **(69.2%)**	30件 **(88.2%)**	65件 **(72.2%)**
ＫＰＩの50%以上 ～75%未満	**25件** **(11.1%)**	9件 **(14.5%)**	3件 **(7.7%)**	2件 **(5.9%)**	11件 **(12.2%)**
ＫＰＩの50%未満	**30件** **(13.3%)**	5件 **(8.1%)**	9件 **(23.1%)**	2件 **(5.9%)**	14件 **(15.6%)**
合計	**225件**	62件	39件	34件	90件

※目標値の設定が困難であったものや最終年度に目標値を設定しているものなどは含んでおりません。

※下段の（　　）は、合計からの割合を示しており、四捨五入により算出しているため、合計が１００%にならない場合があります。

令和7年度　主な総合戦略事業

【基本目標1】 新しい人の流れづくり

社会増減　R7末時点実績値　－118人
(R11末時点目標値　－50人)

【「阿波市の魅力」の全国への発信】

・阿波市　市制20周年記念事業

人とまち こころ阿波せて 20歳

令和7年4月1日に市制20周年を迎えたことを記念し、魅力を市内外に発信する様々な事業を実施。



記念式典



PRキャラクター

・ふるさと納税事業

個人版ふるさと納税

寄附件数：9,695件（R6）　→　**10,702件（R7）**

寄附金額：205,820,500円（R6）　→　**220,737,285円（R7）**

過去最高額

・大阪・関西万博出展事業

PR動画の作成やブースの出展を実施。

県と市が一体となり誘客に取り組むとともに、本市の文化を世界へとPRする。

万博を契機とした新たな「人・モノ・コト・情報」の流れの創出

【基本目標2】 地域における仕事づくり

新規就農者数　R7末時点累計値　6人(R11末時点目標累計値　40人)
企業立地件数　R7末時点累計値　1件(R11末時点目標累計値　3件)

【多様な担い手の育成】

・有機JAS認証取得支援補助金

有機JAS認証の取得に係る費用を支援することで、有機農業をはじめとした、環境に配慮した農業の浸透を図る。



【新規創業等の支援】

・がんばる企業応援事業

中小企業が積極的に取り組む経営革新、販路開拓、人材確保、創業、事業承継等に関する事業に対し補助。

令和7年度は**創業**に係る補助額を**40万円**に拡充。



【地域特性を生かした「阿波市ブランド」の展開】

・農業発信スポーツ連携事業

徳島インディゴソックスと連携し、農作業体験の実施やPR活動を実施することで、全国へのPRを行う。



農作業体験(R8.2.26)

【基本目標3】 結婚・出産・子育ての希望づくり

出生者数　R7末時点実績値　105人
(R11末時点目標値　120人)

【多様な子育て支援施策の推進】

・通学用かばん配付事業

子どもが小学校に入学するにあたり、通学用かばんを配付することで、家庭の経済的負担及び児童の通学時の身体的負担の軽減を図る。



通学用かばん（全7色）

・中学校給食費無償化事業

市内在住中学生の学校給食費を無償化。



学校給食

・幼児教育・保育の無償化事業

令和7年9月より、認可保育施設を利用する0歳児から2歳児の保育料について無償化を実施。



【基本目標4】 活力ある暮らしやすい地域づくり

GIGA端末を利用した児童生徒の割合　R7末時点実績値　51.4%
(R11末時点目標値　90%)
小学校区防災訓練参加者数　R7末時点実績値　3,810人
(R11末時点目標値　4,500人)

【学校施設におけるICTの整備】

・学習者用ソフトウェア導入事業

市内小中学校に、AIドリルアプリや協働学習支援ツールを導入。

- 個別最適な出題による学習効果の向上
- 画面共有や管理の簡便化などによる業務の効率化

【広報・広聴活動の充実】

・まちづくりミーティングの実施

市民の声を聴き、今後の行政運営やまちづくりに生かすことを目的として実施。



まちづくりミーティング

【自主防災組織の育成】

・自主防災組織充実強化事業

令和7年度より活動費の補助額を**500円に増額**。



防災訓練

新しい地方経済・生活環境創生交付金（第２世代交付金）事業

事業名：社会・経済状況の変化に適応する「とくしま農林水産業」生産力強化戦略

R8 年度対象事業費（うち交付金額）：1,414,399 円（707,199 円）

事業期間：R3～R7

事業概要◆徳島県と連携し、６次化商品の開発や販路開拓、スマート技術を活用した課題解決への支援などを実施。（広域連携事業）

阿波市のいいもの販売促進・6次化推進連携事業

6次化商品開発支援

新商品の開発

阿波市吉野町を拠点に音楽教室や地域イベントを展開している「スタートミュージック」が、阿波市吉野町のいちご生産者と連携し、収穫期における供給過剰や規格外品となったいちごを原材料として、「いちごみるくの素」を開発。



【新商品】

6次化商品販路開拓支援

都市圏等に向けて情報発信

展示商談会への出展

東京ビックサイトで開催された「アグリフードEXPO東京に出展。

「阿波市特産認証品」のPR活動を実施。



【展示商談会】

活力ある阿波市農業振興事業

先進的技術導入支援（スマート技術の導入）

農業の課題

①農業従事者の高齢化
②担い手の減少
③人手不足
④技術の継承
⑤耕作放棄地の増加　など

解決するには・・・

先進的技術を活用！
①省力化・効率化
②労力の軽減
③労働力の確保
④大規模経営の実現

■直進キープ機能付田植機を導入



農業の課題への対応

①直進キープ機能とは？
GPSとの通信により、直進時に自動操舵で直進がキープできる。

②効果
作業の時間短縮、精度の向上、疲労の軽減、経験の浅い人でも作業可能　など

事業名：イーストとくしまDMO　ニューツーリズム推進による新たな事業創出による地域活性化の実現

事業期間：R3～R7　R7年度対象事業費（うち交付金額）：1,350,000円（675,000円）
事業概要：◆県東部15自治体と民間企業が連携し、専門的かつ広域的な観光振興に取り組む事業。（広域連携事業）

DMO

DMO（観光地域づくり法人）とは、地域の「稼ぐ力」を引き出すとともに、地域への「誇り」と「愛着」を醸成する視点に立ち、行政や観光関連事業者、地域住民など多様な関係者を巻き込みながら、観光地域づくりを行う組織。

（一社）イーストとくしま観光推進機構　日本版DMO法人登録　（2024.4.26）

徳島市・鳴門市・小松島市・阿波市・吉野川市・勝浦町・上勝町・佐那河内村・石井町・神山町・松茂町・北島町・藍住町・板野町・上板町・民間事業者

令和７年度の主な実績

①2025大阪・関西万博会場や関西国際空港万博PR ブースに出展し、徳島東部エリアの魅力を発信




県主催イベント「徳島のなつやすみ」での観光PR (7/27-28)

②Web･SNS プロモーション事業

徳島県東部エリアを、旅の候補地に選んでもらうべく、WebサイトやGoogle Map、Facebook、Instagram、X(旧Twitter)に観光スポットや体験の情報を拡充！

■X(旧Twitter)



フォロワー数　R7　2,975

③多言語デジタルガイドの整備

来訪者がスマホやタブレットでQRコードを読み取ると、観光施設のデジタルパンフレットが表示され、音声案内も聞くことができる多言語デジタルガイドを制作

■対象施設

1. ひょうたん島周遊船 (徳島市)
2. 阿波おどり会館 (徳島市)
3. あわぎん眉山ロープウェイ (徳島市)
4. 徳島県立阿波十郎兵衛屋敷 (徳島市)
5. 藍住町歴史館 藍の館 (藍住町)
6. 上勝町ゼロ･ウェイストセンター (上勝町)
7. RISE & WIN Brewing Co. (上勝町)
8. 山犬嶽 (上勝町)
9. **阿波の土柱 (阿波市)**

サステナブルな観光コンテンツを選定！

■対応言語

日本語、英語、韓国語、中国語 (繁体字/簡体字)、フランス語、ドイツ語、イタリア語、スペイン語、タイ語、インドネシア語、ベトナム語、タガログ語マレー語、ヒンディー語、全**15言語**に対応！

事業名：学習支援ソフト導入事業

R7年度対象事業費（うち交付金額）：23,138,690円（11,569,345円）
事業期間：R7
事業概要◆小・中学生の学力向上を図るため、AIドリル・AI英語学習アプリ・協働学習支援ツールを児童・生徒１人１台のタブレット端末の更新に併せて新しく整備し、これらのアプリケーションを活用することにより、個別最適な学びと協働的な学びを促進し、子どもたちの学習意欲を向上させるとともに、学力の向上を実現する。

主な事業

「AIドリル(ドリルパーク)」の導入

【アプリ概要】
・AIによる個別最適な出題が可能なドリル。
・児童生徒の状況をリアルタイムで確認できる。
・一人ひとりに最適な課題を配信できる。

【導入効果】
AIドリルは、AIが児童生徒の誤答要因を分析して最適な問題を提示できることから個別最適な学び行うことができる。
また、先生は児童生徒一人ひとりに合わせた課題配信・リアルタイムでの学習状況の把握を行うことができるとともに、採点も不要となることから、教育効果の向上と先生の業務効率化の両立に寄与することができる。

「AI英語学習アプリ(Terra Talk)」の導入

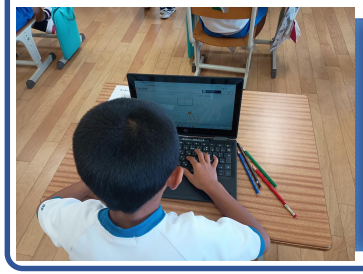
【アプリ概要】
・AI技術を活用した英語学習アプリ。
・アプリが先生役となり音読や英会話ができる。
・先生からの課題配信も可能。

【導入効果】
AIを活用した会話練習は、「話す・聞く」を主体とした能動的学習を促進する。人ではなくAI相手に発話することで抵抗感を減らし、何度もチャレンジしようとする意欲を高める効果も期待できる。
また、一斉授業の中でも個別の児童生徒の状況を把握し、きめ細かなフィードバックを行うことで、学びの質を向上させる。

「協働学習支援ツール(ICA Light)」の導入

【アプリ概要】
・先生の端末の画面を児童生徒に共有、児童生徒の画面を比較して表示できる。
・先生の端末からリアルタイムで児童生徒の画面をモニタリングできる。

【導入効果】
無料のアプリも含め、どのアプリでも画面共有、管理が可能になることから授業の幅が広がり、協働的な学びに繋がる。
また、児童生徒の学習状況の進捗確認やカンニング防止・画面ロック・インターネット等利用制限を行えることから授業をスムーズに進行することができる。



【KPI及び実績】
実施計画に定める重要業績評価指標
〇1日の学校生活でGIGA 端末を利用した児童生徒の割合：51.4%【目標：70%】
〇1週間にAIドリルを利用して学習した児童生徒の割合：21.4%【目標：10%】
〇1週間に英語学習アプリを利用して学習した児童生徒の割合：2.6%【目標：10%】
〇国語・算数の授業の理解度（小6）：85.5%【目標：85%】
〇国語・数学の授業の理解度（中3）：78.6%【目標：78%】
〇英語の勉強が好きな人の割合（小6）：76.2%【目標：70%】

